

戸塚区の概要

～戸塚区の成り立ち～

「戸塚」の地名の由来には「富塚」「十塚」「豊塚」という複数の説があります。また、富塚八幡宮(戸塚町)の縁起には「平安時代の後期、戸塚修六郎友晴およびその子孫がこの地の開発に努力したので「戸塚」と呼ぶようになった」と記されています。

鎌倉時代には鎌倉の玄関口として重要な役割を果たし、江戸時代には東海道の宿場町として栄えました。明治4年(1871年)廃藩置県により神奈川県になると鎌倉郡に編入、明治20年(1887年)には横浜・国府津間の鉄道の開通により戸塚駅が設けられ、駅を中心として次第に発展しました。

昭和14年(1939年)、鎌倉郡内の1町7村がまとまって横浜市に編入、戸塚区が誕生しました。昭和30年(1955年)代以降は、内陸工業地域を結ぶ道路網の整備、根岸線の大船までの延伸などと歩調を合わせるように、住宅団地の建設、宅地開発が進み、人口が急増しました。

こうして戸塚区は市内最大の面積、人口を有するに至りましたが、行政区再編により昭和44年(1969年)10月に瀬谷区が、昭和61年(1986年)11月には泉区と栄区が分区され、現在に至っています。

戸塚区の分区の変遷

■ 現在の戸塚区範囲



昭和14年(1939年)
鎌倉郡から横浜市に編入



昭和44年(1969年)10月
瀬谷区が分区

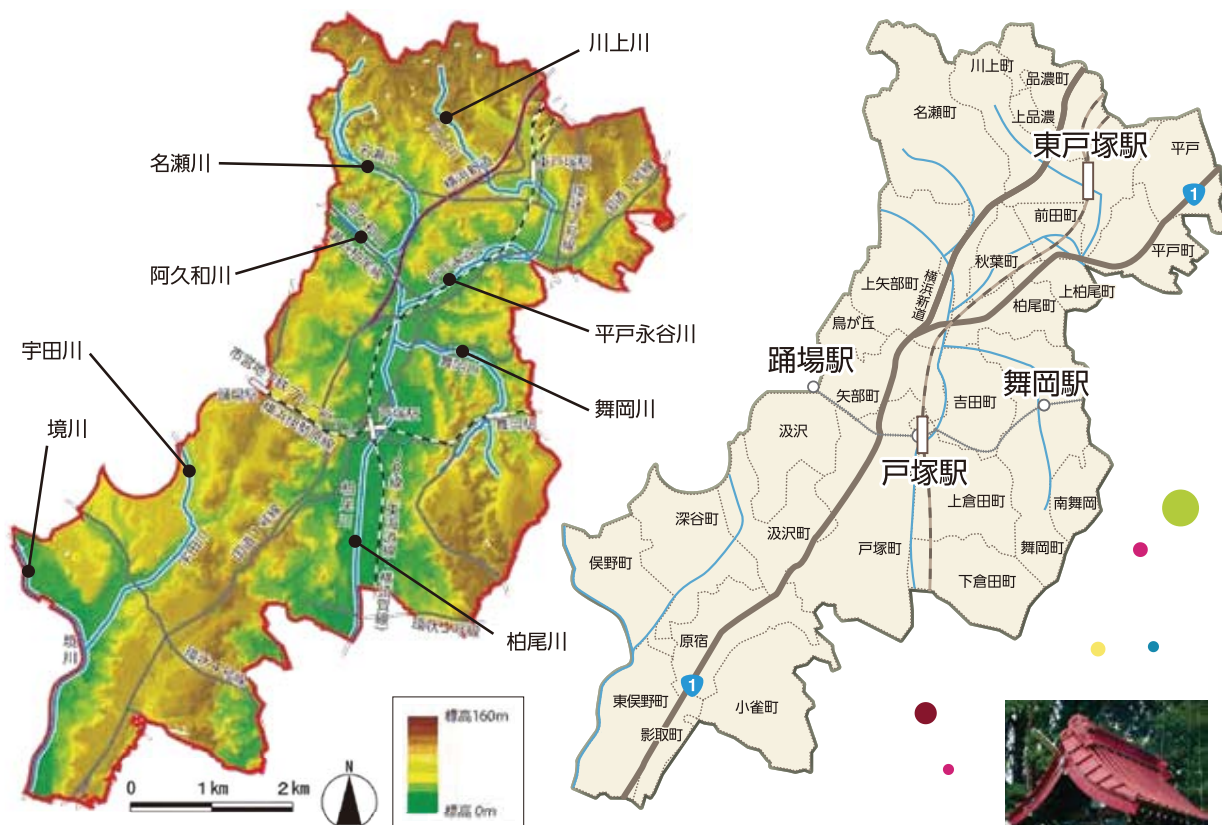


昭和61年(1986年)11月
泉区・栄区が分区

～豊かな自然・歴史・賑わいのあるまち～

区内には、柏尾川とその支流である阿久和川や舞岡川、境川とその支流である宇田川など多くの河川があり、その周辺は豊かな自然に恵まれています。

旧東海道や戸塚宿に代表される歴史と、魅力あふれるまちがにぎわっています。



阿久和川のカワウとうなぎ



東戸塚 イルミネーション



舞岡公園



おおやまみち
大山道

戸塚区のプロフィール

戸塚区は横浜市 の南西部に位置し、南北に長く、北は旭区・保土ヶ谷区の2区に、東は南区・港南区の2区に、南は栄区・鎌倉市に、西は泉区・藤沢市に接しています。多摩丘陵の南端に位置し、区の中央部を柏尾川が南北に流れています。

面積：35.70km²
人口：279,219人
※2019年1月1日現在